

No. 10

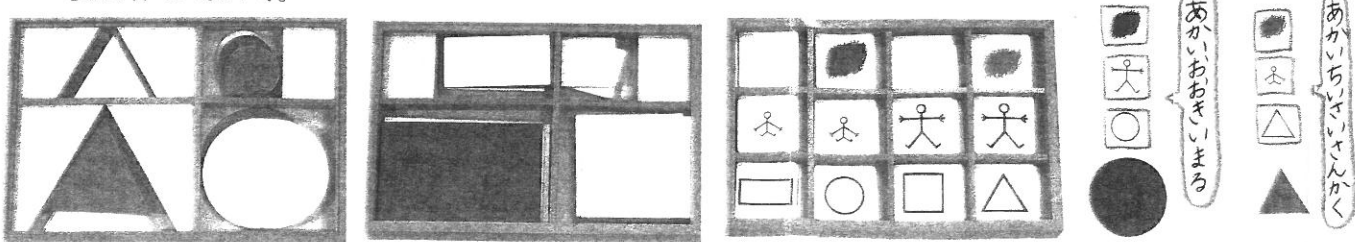
2013年2月

No.8、No.9とモンテッソーリ教育の“言語”に焦点を当て、紹介してきました。「話ことば」「書きことば」の活動を通して、幼児は豊かな語彙を習得していきます。一般的には、書くことよりも読む方が先行すると考えられていますが、モンテッソーリ女史は、逆であると明言しています。その理由については、前回も少し紹介しましたが、たくさんの教具を通して、早い時期から手を本当によく使うため、書くための手がすでに十分準備されているからです。そして、もう一つの理由があります。モンテッソーリ教育で意味する読みとは、単なる拾い読みを意味しないということです。モンテッソーリ教育において読むとは、ある文字を見て、それが示す意味を正しく認識し、把握して「抑揚」(よくよう)をつけて言葉にすることです。

“読むこと”の教具として

- 読むカード
- 説明文をよむ
- 行動あそび
- 手紙をかく
- 文法あそび(ロジックあそび)

大小4色の丸、三角、四角、長方形の箱と大小をあらわすシンボルカード、色をあらわすシンボルカード、形をあらわすシンボルカードの入った箱を使って形容詞を作っていく。

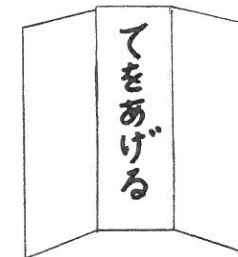


☆豊かな語彙を習得し、文字の世界に広く深く親しんできた子どもたちに、今度は文の仕組みや決まりについての方向性を示す活動が紹介されます。

「文法あそび」と聞くと、私たち大人は、とかく堅苦しい退屈な印象を抱きますが、モンテッソーリ教育では、楽しく遊びながら会得できるよう、工夫されています。そのため、子どもたちは、「文法」などとは思っておらず、あくまでも楽しいことば遊びの一つとしかとらえていません。

教具紹介「行動あそび」

- 目的・・・
 - 読んだものを理解して動作であらわす。
 - 動詞の機能を知る。
 - 文章を読んで理解する準備



年齢・・・4歳半～5歳半

教材・・・動詞が書いてあるカード3種類

(例) 黄色・・・泣く、笑う、怒る、寝る、歩くなど(1番やさしいもの)

水色・・・手をあげる、首を回す、肩をたたくなど(やや難しいもの)

桃色・・・立ってお辞儀をする、先生と握手をするなど(難しいもの)

方法・・・グループ(6人ぐらい)で行う[先生と一緒に]

参考例

- ①教師が子どもにカードをくばり、「カードに書いてある言葉を黙って読んで、その通りにしてね。」と言う。
- ②子どもは、書いてあったことばの内容を動作で表す。
(例)とぶ ひこうきのように手をのばして動く ジャンプするなど
- ③見ている子どもに教師がたずねながら、何をしたか当てる。

☆他にも・・・●グループの子どもがそれぞれのカードを読み、同時に鈴が鳴るまでカードに書いてある動作を行う。その後、一人ずつカードを声に出して読んでもらう。
●桃色のカードは机で一人で読んで行う。

また、教具の中の「説明文を読む」では、清心幼稚園でも、シールをはる机の前に月の予定表を貼ったり、カードをクラスの入り口のところに掛けて、その日の日程に関する連絡事項を文字で伝えています。(いつも大人が口ばかり伝えるのではなく、文字で伝えることも大切です。)

Aさんなど、読める人は口に出して言い、読めない子ども読んでいる子の声を聞くことで伝わります。
次第に自分で読んで、書いてある意味が分かるようになっていったら、嬉しいですね。

